

令和元年 12月 27日

南の風 325

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

昭和49年度の保土ヶ谷区球技大会ポートボールの部で、常盤台小学校6年生の女子は、すべての試合で帷子小学校に勝つことができました。特に最後におこなった選抜チームの試合では、ほとんど相手に攻撃のチャンスを与えずに圧勝しました。これまで負け続けていた相手校に勝つことができ、積年の願いを達成し、子どもたちはもちろん我々担任も大喜びでした。

その後も昭和55年まで、区の球技大会は男子サッカー、女子ポートボールとして続いていくことになります。

さて、昭和49年度の話に話を戻します。

東京（昭和50年3月）で全国ミニバスケットボール大会（正式には交歓大会）が開かれることを知った私は、神奈川県バスケットボール協会に連絡をし、全国大会に出場するための選考方法を聞きました。

当時協会としては県内各地のミニバスケットボールの活動自体を、はっきりと把握していないようでした。ですから当然全国大会出場の選考基準は設けてないということでした。

ただ以下の情報をもらうことができました。

『県内で唯一、明確な活動が見られるのが横浜の戸塚区であり、その中心となっているチームが大正小学校（後の大正スーパースターズ）ミニバスケットボールクラブであること。（昭和45年チーム結成）そして、ミニバスケットボール活動の輪は、汲沢小、深谷小、葛野小と近隣の小学校へ広がっているようである。』

したがって、全国大会（昭和49年度）出場については、大正ミニバスケットボールクラブの監督である、泉野 孝之先生と相談してほしいということでした。大正チームは昭和48年度の全国大会へ出場していました。

そこですぐに泉野先生に電話をしました。結論を書きます。（泉野先生との話し合いから）

全国大会出場についての明確な選考方法がないので、全国大会に出たいチームに意思表示してもらいゲームをして決定することになりました。

県協会がまとめたところ、全国大会に出場希望するチームは、戸塚区の数チームと保土ヶ谷の常盤台チームしかないとのことでした。

そして大会までに紆余曲折があったのですが何とか乗り切り、企業の体育館（ブリジストン横浜柏尾工場）をお借りして、無事開催することができました。

大会前に大正チームをはじめ、戸塚区のチームと練習試合をしました。大正チームの男子は断トツに強く、ほかのチームは全然歯が立ちませんでした。常盤台も完敗でした。一方女子は、大正チーム以外には勝つことができました。大正チームには惜しくも負けましたが、勝てる要素を見出すことができました。

大会は、現在のようなミニバスのルールがない中、中学校のルールを基本にして取り入れました。ゴールの高さ3m5cm、ボールは6号の皮、競技時間は10分ハーフでした。神奈川県代表決定の期日が迫る中、ワンデーターナメントになりました。次号は、年明けになります。どうぞよいお年を！